

ウクライナ避難者支援プロジェクト

ロシアによる軍事侵攻から3年、戦争の終わりが見えない不透明な情勢の中、世界では今も約650万人のウクライナ人が避難生活を余儀なくされています。日本には2025年3月末までに約2,800人が避難し、YMCAではそのうち1,800人の生活相談、伴走支援を行っています。戦争の長期化を見据え、定住か帰国か揺れ動く避難民一人一人に寄り添い、生活支援、就労支援、子どもの進路進学サポート、日本語学習相談、QOL（生活／人生の質）向上のためのイベント開催、そして帰国支援など、多種多様な活動を展開しました。



1.「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業」

約600人の避難民が集中する都内の避難民の支援策として、2022年7月に東京都および東京都つながり創生財団と協定を締結して開始した「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業（ポポートニク・トーキョー）」を、2024年度も継続して実施しました。都内の避難者宅訪問や電話、SNS等を通じた相談対応を行い、各種現状調査を実施、避難者の現状やニーズを把握し必要な支援へとつなげるとともに、避

難者のニーズを広く社会に発信する政策提言活動も行いました。

○訪問・相談対応件数：956件（避難民自宅訪問件数 155件含む）

○定例会実施：隔週1回、東京都ほか関係団体と会合をもち、調査結果や支援内容、課題などを報告・相談

○マッチング支援件数：830件（2024年4月～2025年3月）

相談分類	件数	主な支援
物資	90	生活用品（自転車、衣料品、生活家電など）、学用品（ランドセル、文具など）ほか
日本語	92	多様なニーズに応じた日本語教育（就労、オンライン、地域の教室、検定試験など）
就業	125	キャリアカウンセリング、ハローワーク同行、フルタイム移行支援、就業先対応
手続き	127	ビザ更新、補完的保護・定住支援プログラム、日本財団関連、都営住宅延長 ほか
財政	123	生活困窮・生活保護相談、各種支援策終了に伴う相談対応
教育	83	受験・進学対応（学校見学、説明会同行など）、進級・入学準備、学校との相談対応
医療・メンタル	90	体調・メンタル不調者、発病・持病悪化、インフルエンザ・熱中症などの対応
生活・やりがい	58	趣味・サークル活動支援、イベント出展・協力、生きがいづくり
その他	42	帰国・一時帰国、引越し、移住、家族呼び寄せ対応、空き家情報、法律相談 ほか

2. 生活オリエンテーション

避難者が来日後、住環境が決まるまで滞在するホテルで、日本の生活についてオリエンテーションを行いました。

○実施回数：22回（4月～3月、隔週水曜日）

○参加人数：20人

○内容：都営住宅への引っ越しに関する案内、ごみの分別や

買い物など生活情報、気候や災害についての心構え、また日本語学習や就業、教育のためのガイダンスなど、日本で暮らすための基本的な情報をウクライナ人スタッフが説明しました。

3. イベント、交流の機会提供

①定例事業

ウクライナ文庫（常設）約600冊の蔵書貸出

②東京都や各自治体主催のイベントへの協力

（FC東京のサッカー観戦、地域生活サロン等）

③Ukraine Cafe HIMAWARI（YMCA主催事業）

○実施回数：6回

○参加人数：186人

○実施内容：避難民とその家族を対象に、多言語での生活相談や教育・就業支援、ウクライナ語の本を取りそろえた常設図書館『ウクライナ文庫』の運営、避難者・支援者のリフレッシュを目的とした各種イベントの実施、避難者主導の事業・イベント実施支援など

●常設 図書館「ウクライナ文庫」（遠隔地含む）

●常設 衣料品・生活用品提供コーナー

●避難者就労支援企画：

避難者向けオンラインIT研修コース（8週間）2回

●避難者・支援者リフレッシュ企画：

夏休み宿題サポート（日本YMCA同盟）

クリスマス人形劇・パーティ（東京YMCA）

YMCAサマーキャンプ（東京YMCA山中湖センター）

●学び直しの日本語サロン（個別・竹ノ塚駅前会議室）

（YMCA・NPO法人メタノイア協働新規事業）

●避難者主導の事業・イベント実施支援（YMCA事務所）：

プレイバックシアターグループ（22回）

4. 協力者や専門家（有識者）との協力

大学教員（大森佐和氏：国際基督教大学教授）、YMCA国際協力委員、難民支援に関わる団体・有識者、ヨーロッパYMCA難民担当者らと意見交換を行い、避難民へのアンケートの実施と分析、公共政策の視点から関連行政等の機能に関する政策提言、諸外国のウクライナ避難民の動向等情報提供等を行いました。長期化する避難生活において経済的自立に向けた重点課題の整理やそのプロセスは、日本の難民施策、多文化共生施策にも関わる重要なテーマです。

5. 政策提言活動（フォーラム開催、報告会の実施等）

①フォーラムの開催（東京都主催）

「ウクライナ避難民支援連携フォーラム」：

第1回 2024年9月5日 第2回 2025年3月6日

②特別企画「戦禍を逃れて三年 ウクライナ避難者が自ら語る『いま』、『これから』」（日本YMCA同盟主催）

2025年2月22日実施

避難者・有識者・メディア等80人参加

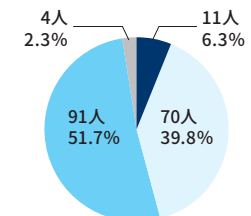
【アンケート調査】

1月実施のYMCA避難者現状調査結果から：

避難者の多くが受けている日本財団の経済支援はそのほとんどが2025年度中に終了。一方、戦争が終結しても「すぐに帰国する」という避難者はわずか6%と、9割以上の避難者が「日本での長期滞在や定住を希望する」という結果で今後も多様化する課題への支援が望まれます。

戦争が終了（停戦・休戦）した場合、どのような選択を希望しますか？

■ 速やかに帰国する
■ しばらくの間、状況を見る
■ 日本に残り、定住を試みる
■ その他



戸別訪問の様子



特別企画「避難者が自ら語る『いま』、『これから』」2/22



クリスマス人形劇「てぶくろ」上演・パーティ